

晩春

岡本かの子

青空文庫

鈴子は、ひとり、帳場に坐つて、ぼんやり表通りを眺めていた。晩春の午後の温かさが、まるで湯の中にでも浸つてゐるやうに体の存在意識を忘却させて魂だけが宙に浮いてゐるやうに頼り無く感じさせた。その頼り無さの感じが段々強くなると鈴子の胸を気持ち悪く圧え付けて来るので、彼女はわれ知らずふらふらと立ち上つて裏の堀の縁へ降りて行つた。材木堀が家を南横から東後へと取巻いて、東北地方や樺太あたりから運ばれて来た木材をぎっしり浮べてゐる。鈴子は、しゃがんで堀の縁と木材との間に在る隙間を見付けて、堀の底をじつと覗くのであつた。

彼女は、七八歳の子供の頃、店の小僧に手伝つて貰つて、たもを持ってよく金魚や鮎ふなをすくつて楽しんだ往時を想ひ廻めぐらした。その後、すっかり、振り向きもなくなつたこの堀が、女学校を卒業して暫くするとまた、急に懐なつかしくなつて堀の縁へ遊びで来る魚を見るだけではあつたが、一日に一度、閑ひまを見て必ず覗きに來た。そんな癖のついた自分を子供っぽいと思つたり、哀なものだと思えたりする。

今日もまた、堀の水が半濁りに濁つて、表面には薄く機械油が膜を張り、そこに午後の陽の光線が七彩の色を明滅させてゐる。それに視線を奪われまいと、彼女はしきりに瞬まばたき

をしなから堀の底を透かして見ようとする。

ただ一匹、たとえ小鮒でも見られさえすれば彼女は不思議と気持が納まり、胸の苦しさも消えるのだったが……鈴子が必死になつて魚を見たがるのと反対に、此頃では堀の水は濁り勝ちで、それに製板所で使う機械油が絶えず流れ込むので魚の姿は仲々現われなかつた。

魚を見付けられぬ日は鈴子は淋しかった。落ち付けなかつた。胸のわだかまりが彼女を夜ふけまで眠らせなかつた。魚と、鈴子の胸のわだかまりに何の関係があるのかさえ彼女は識別しようとしなかつたが……鈴子は二十歳を三つ過ぎてもまだ嫁入るべき適當な相手が見付からなかつた。山の手に家の在る女学校時代の友達から、卒業と共に比較的智識階級の男と次ぎ次ぎに縁組みして行く知らせを受けて、鈴子は下町の而も、^{しか}辺鄙な深川の材木堀の間に浮島のように存在する自分の家を^{のろ}呪つた。彼女は、自分の内気な引込み思案の性質を顧みるより先に、此の住居の位置が自分を現代的交際場裡へ押し出させないのだと不満に思う。その呪いとか不満が彼女のひそかな情熱とからみ合つて一種の苦しみになつていた。

うっとりとした晩春の空気を驚かして西隣に在る製板所の丸鋸^{まるのこ}が、けたたましい音を

立てて材木を嚙じり始めた。その音が自分の頭から体を真二つに引き裂くように感じて鈴子は思わず顔が赤くなり、幾分ゆるめていた体を引き締め、開きめの両膝をぴったりと付ける、とたんにもくもくと眼近くの堀の底から濁りが起つてボラのような泥色の魚がすつと通り過ぎた。鈴子は息を呑^のんで、今一度、その魚の現われて来るのを待ち構えた。

「鈴ちゃん、また堀を覗いている。そんなに魚が見度^{みた}かったら、水族館へでも行けば好いじゃないか。順ちゃんがね、また喘息^{ぜんそく}を起したからお医者へ連れて行ってお呉れ」

忙がしく母親が呼ぶ声を聞いて鈴子は「あ、またか」と思った。六歳になる一人の弟の順一が昨年の春、百日咳にかかつて以来、喘息持ちになって、何時^{いつ}発作を起すか判らないので誰か必ず附いていなければならない。

このお守りさんの為めにも鈴子は姉として母親代りに面倒を見なければならなかった。女学校を出て既に三四年もたち、自分の体を早くどうにか片付けなければならない大事な時期だというのに、弟のお守りなんかに日を送っていることはつらかった。

「誰も、私の気持ちなんか、本当に考えていて呉れない」

鈴子はそう心に呟き乍らまだ堀へ眼を向けている。

「鈴ちゃん、順ちゃんが苦しんでいるって言っているのに判らないかい」

母親の嘆くような声が再び聞えると鈴子はしぶしぶ立ち上って「私だって苦しいんだわ」とやけに思った。しかし、いつまでしぶつてもいられなかった。彼女は、急にしゃがんで小石を拾うと先刻ボラのような魚の現われた辺を目がけて投げ込んだ。すると、変な可笑しさがこみ上げて来た。鈴子は少し青ざめて、くくと笑い乍ら弟の様子を見に家へは入って行った。

青空文庫情報

底本：「岡本かの子全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1994（平成6）年2月24日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十四卷」冬樹社

1977（昭和52）年5月15日初版第1刷

初出：「明日香」

1936（昭和11）年6月号

入力：門田裕志

校正：オサムラヒロ

2008年10月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

晩春

岡本かの子

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>